五省会ニュース

発行所
医療法人財団五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41−2481(代)
発行人　西能 正一郎

五省
一、至誠に悖るなかりしか
一、言行に恥ずるなかりしか
一、気力に欠るなかりしか
一、努力に憾みなかりしか
一、不精に亘るなかりしか

嗜好調査、二十年の流れ

主食の摂取量が減少傾向

西能病院栄養部　病院給食に弾力性を

西能病院栄養部では、食事に関する意見を調査することで、とかく画一的になりがちな病院給食を少しでも弾力的に運ぶために努力しているが、過去二十年で二十八回の嗜好調査から食生活の流れを追った。

主食100g適当が66%

主食について、昭和四十年当時、一人当り一食180gを給与量としていたが、アンケートの結果、分量が多い0%、適当72%、少ない22%。五十年当時では120gの給与量にたいし、多い14%、適当67%、少ない8%。さらに六十年に入って100gの給与量で、多い18%、適当66%、少ない14%と、主食の摂取量が減少傾向をたどっていることがわかった。

好物はさしみが圧倒的

好きな献立に関しては、四十年前半は、すしと、さしみを好物とする割合が圧倒的で、次いで親子丼と続いていた。四十五年ごろでも、さしみが60%、とんかつと、寿しが同等をしめた。五十五年はさしみ42%、焼魚38%。六十年のアンケートでは魚料理が36%と好まれ、その内、さしみが50%をしめていた。いづれも肉料理が好まれる割合が少ない。

補食は果物が85%

補食の状況については、四十五年当時、病院の食事以外に何か食べているが11%、大体食べている16%、時々食べている65%、何も食べていない8%。五十三年では、何か食べている11%、時々食べている63%、何も食べないが9%となっている。どちらも、補食しているものは果物が85%をしめていた。

一日二回ではみそ汁、少ない44%

みそ汁の回数では、四十年当時、一日二回の給与に対し、多い7%、適当52%、少ない21%とあるが、六十年の同じく一日二回の給与に対し、多い1%、適当48%、少ない44%と出ている。これは、ガン予防に、みそ汁がよいといった情報が、こういう結果を生んだものと考えられる。

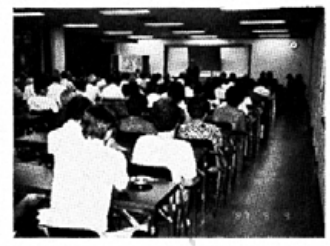
20gから13gに

みそ汁の、みその使用量は、四十年当時、一人一食20g使用していたが現在は13gにしている。最初うす味が不満の原因ともなったが、いまは馴れてきたようである。

故住代議士を偲ぶ会

故住栄作代議士（医療法人、財団五省会理事）を偲ぶ会が、五福校下住栄作後援会の主催で、九月九日午後六時から呉羽ハイツにおいで開かれた。出席者は、後援会員や西能病院の職員ら百五十人。

釣崎専也同会幹事長が開会の言葉のあと、ビデオで、ありし日の住先生を偲んだ。元気な姿が写しだされると、一同は仕事のムシで庶民的だった人柄を思い出して感慨無量。西能正一郎同会長が挨拶、経過報告、桝崎哲夫魚津地区後援会長が来賓挨拶、芳子夫人が、謝辞、次男博司さんが、政治の道へ進む決意をのべた。牛島秀雄同会副会長の閉会の言葉でおわった。



懇親会に移り飯田政太郎自治振興会長が挨拶と献盃、多賀清成富山市議が閉会の言葉をのべた。

救世観世音菩薩

西能 正一郎

もう二十年以上になりますが、病院の私の部屋に、一体の観音像が安置してあります。身の丈三十センチ、台座から光背まで四十二センチという楠の一体彫りの小振りの仏像であります。作者は、高橋玄然先生。もう十年以上も前にお亡くなりになりましたが、高名な仏像作家で、東京に在住の方でありましたが、戦時中の強制疎開で奥さんの郷里である上市町に移住してこられ、そのまま住みつかれたものと聞いております。

昭和四十年頃、私は富山ライオンズクラブのメンバーでありました。当時上市ライオンズクラブの発会式があり、そのチャーターナイトに富山からもお祝いに参上しました。会場は上市中学校の講堂があてられたと記憶しています。その時のアトラクションとして、教室を使って、高橋玄然先生の作品展が催されていました。大小さまざまな作品の群の中に、今の観音像もひっそり並べられていたのでありますが、帰宅して床に入ってからも、その観音様のお姿が頭からはなれません。

その展覧会は作品を売却する目的で開かれたものではなかったのです。が、どうしても譲り受けたいと、追いつめられたような気持になって、夜が明けるのを待って、展覧会のおせわをなさっていた上市厚生病院の越山院長のお宅に伺い、お願いをしてみました。幸いにも、高橋先生のご諒解をいただき、数日後にその観音様は私のもとに来られました。箱書には救世観世音菩薩、高橋玄然作とあり、まだ楠のかおりが馥郁としておりました。

以来、病院の私の部屋に常にこの観音様が安置してあります。病院もこの二十年間、色々と様子が変りまして、院長室もあちこち移動しましたが、その都度、部屋の中の最も収まりの良いと思われる場所を選んでいていただきました。

医師とはいうけれども、実体は只の人間であります。どれほどの歳月を修業しようとも人間であることから脱却出来ない限り、神技とはほど遠い人間の力の限界を悟らねばなりません。けれども、毎日毎日の臨床の場で、自分の力の限界以上の神技を期待され、又そうしてあげたいという思いに駆られることも医師として長い務めの間に数限りなくあります。

手術は厳粛に、いささかの傲りもなく

人間の力の限界を悟る

殊に、手術という人間が人間を截るという所作は、その大小にかかわらず、医師であるからと言って本来許されていることではない、許されてはいないが、止むを得ずやらねばならないことと受け止めております。故に厳粛に、いささかも傲りがあってはなりません。

私は、このような場に立たされるときに、机の前に戻って、観音様のお姿を拝むことにしております。安らかな慈顔と対面しておりますと、いかなる変化にも対応出来る自分の判断力に弾力性が生まれ、必ずやりとげる信念が湧いて来て、やらねばならない任務にためらわずに立ち向かう力が与えられるように思われます。

観音様、今日もしっかりやりますから観ていて下さいよ、と念じながら、今日も、人間以上の力を求められる現場に出てゆくのであります。

あすなろ

「子供は親の生活のスキ間を埋める」といった人がいる。早い話が日常生活で、親がのんびりしていると子供はそれをおぎなう形でせっかちになる。反対に親がせっかちなら子は親まかせでのんびりしてしまう―ということらしい▼これをもう少し厳しくいうと、子供は親の考え方や生活ぶりに反逆しながら成長するということにもなる。といって心配することはない。元来、伝統とはそういう「正反合」の形をとりながら伝わっていくもののようだ▼有吉佐和子さんの小説に「紀ノ川」という三部作がある。ストーリーは自伝に近く、祖母、母、自分の血縁三代の女性物語。母は紀州の旧家の因襲に閉じこめられた祖母の生活に反発し東京女子大を出て女権拡張をめざす。海外勤務ということで銀行マンと結婚、インドネシアで娘を産む▼娘は十歳で初めて来日、次第に母の考えに反発、祖母の世界に共感する。この娘が有吉さん自身だが、処女作「地唄」をはじめ日本古典芸能の世界にのめり込むようになる。その小説の中で娘がこんな手紙をかく。

「伝統とは前のものを否定し、それをまた次のものが否定する―という形で伝えられていくものですね」この言葉には実感がある。有吉さんは娘さんの英国留学中に、さびしく酒と睡眠薬におぼれて早逝したのも何かの暗示だろうか。

医療福祉相談の手びき ⑭

今回は、最近質問を受けた中から、知られているようで、実際は、余り知られていない事項三点について問答形式で述べてみたいと思います。

一、問い

県内では、身体障害者（身障手帳1、2級所持者）の医療費助成を受けているので医療費の自己負担分を支払わずに受診できたのですが、先日、県外で受診した時には自己負担分を支払って下さいと言われました。どういうことなのでしょうか。

答え

身体障害者の医療費助成制度は、各県、各市町村の制度として独自に行なわれ、保険の自己負担分を助成していますので県内の制度がそのまま県外で通用するとは限りません。しかし、県外でいったん自己負担分を支払った場合は、領収証を自分の居住する市町村へ提出すれば払い戻しを受けることができます。

二、問い

下肢不自由で、身障手帳5級を所持していますが、一年前から歩行も困難になってきました。手帳は、五年前に交付してもらいましたが、等級変更はできるでしょうか。

答え

身体障害者の認定を受け、手帳を交付してもらうには、身体障害者福祉法で定める指定医の診断書が必要です。そこで前に診断を受けた病院か指定医のいる病院で、もう一度、診断をうけ、再交付の申請を行なって下さい。病院に出向くことができない場合には、訪問診査という制度もありますので、市町村の福祉担当課にご相談下さい。

三、問い

身体障害者手帳を所持していますが、高速道路の料金が割引きされるのでしょうか。

答え

障害者が日本道路公団などの有料道路を利用される場合、料金は半額になります。ただし、次の条件を全て満たした方のみが対象となります。その条件とは、

①身体障害者手帳を所持し、障害内容が下肢又は体幹機能障害者である事。②障害者自ら車を運転する事。③車の所有者は障害者本人又は生計を同じくする人で自家用車である事です。あなたがこの条件を満たしておられるのなら、市町村福祉担当課で割引証の交付を受けて下さい。手続の際には、身体障害者手帳、運転免許証、車検証が必要です。

尚、詳しい事については、市町村役場、病院の医療相談室で、お尋ね下さい。

（医療ソーシャルワーカー　高村美和子）

健康法の問題 (40)

矢野三郎

「久し振りで正宗を二、三杯飲んだら、けさは胃の具合がたいへんいい。胃弱には晩酌が一番だと思う」。夏目漱石の「吾輩は猫である」の中で苦沙弥先生が言っている。胃潰瘍で苦しんでいた漱石は健康問題にかなり関心をもっていたようだ。朝食をやめると胃がよくなる、胃癌の原因はつけ物にある、もみ治療でたいいての胃病は根治できる、固形物を食うな、横隔膜で呼吸して内臓を運動させよ、そばを食べたらよい、……いろいろな健康法を漱石にすすめる人がいた。しかし何を試みてもすべて駄目。結局、毎晩二、三杯の正宗に落ちついたようだ。

明治の時代、各種の健康法が西洋文明とともに、わが国に輸入された。漱石は皮肉な目でこれを眺めている。「運動をしろの、牛乳を飲めの、冷水を浴びろの、海の中へ飛び込めの、……とくだらぬ注文を連発するようになったのは、西洋から神国へ伝染した輓近の病気で、やはりペスト、肺病、神経衰弱の一族と心得ていいくらいだ」とさえ言っている。しかし二十世紀の今日、運動せんのはいかにも貧民のようで人聞きが悪い」というわけで、猫が始めた運動はかまきり狩り、蝉取り、松すべり、そして有名な瑠めぐりである。ところが「運動もいいが度を過ごすといかぬものだ」ということになる。

漱石は運動の効果を否定していたのではないが、今まで静かに坐って、悠々と暮らすことをもって人間の貴さと考えていた連中が、急に運動と騒ぎ始めたのを苦々しく感じていたに違いない。流行目まぐるしいことを嘆いているのである。もともと病身かつあった漱石は、運動しようにもできなかったが、健康に対する欲求は強かったに違いない。漱石は二年間、英国に留学していたし、西洋医学と、それにもとづく健康法の価値を認めていたと思う。

それとは反対に、漢方を徹底的に軽蔑している猫の中の一節「主人の子供の時に牛込の山伏町に浅田宗伯という漢方の名医があったが、この老人が病家を見舞う時には必ずかごに乗って……。ところが宗伯老がなくなられてその孫子の代になったら、かごがたちまち人力車に……。だから養子が死んで、そのまた養子が跡をついだ葛根湯がアンチピリンに化けるかもしれない。東京市中を練り歩くのは……あまりみっともいいものではなかった。こんなまねをしてまるまる肥った豚と、宗伯老とたものは……汽車へ積み込まれる豚のみであった」。

現在、漢方ぬきにして健康法を語れないような時代になってきたが、漱石の時代は西洋医学が万能で、漢方はまったくの無視されていたのであった。葛根湯が蔑視され、漢方の名医、浅田宗伯は豚と同格に取扱われている。健康法をめぐる考え方にも時代の影響が大きい。

（富山医科薬科大学・教授）

漱石の時代は西洋医学が万能
いまは漢方ぬきにして語れない

病床日記

久戸信一（七〇）
福光町宮脇町

歩く練習に頑張ろう

入院後各検査のあと十日余りたってから手術を受ける。五十年ぶりの入院、手術を経験してますが、がっくりまいった。結果として、あれだけ痛くてどうしようもなかった足・腰の痛みが忘れた様になくなった。歩く練習に務め、力をつけて頑張る。

看護日記

坪内奈津子
看護部

入苑者の楽しみは、風呂

七月末日、院長の奨めで看護部三名、奈良県特養老人ホーム国見苑を見学した。入苑者の楽しみはお風呂との声が多かった。（私の勤務する慢性疾患病棟でも患者さんの楽しみは同じ）Tシャツにショートパンツ姿のナースが誘導、介助し全身の保清に心がけ好評を得ている。

煙草をやめて飴玉に
健康保持には自覚が大切

五省会ニュースの中で、矢野先生の「健康法の問題」についてをよませて頂き、規則正しい生活をすることだとの御説に賛同するひとりである。

むかしから、何んとかの不養生という言葉があったのを思い出している。人生の半分以上喫煙し、誰れがなんといってもやめるものかと、くだらないところに意地をはっていたのが、余りにも仕事の都合上、夜ふかしのヘビースモーカーとなり、そのたたりが胃をこわしてしまった。食欲不振で仲よしの先生に診断を乞ふと、結局　煙草はやめろとくどいほどいわれた。「殺す気か?」と、毒づいてはいてみたものの結局、飴玉でやめてしまった。

五省会ニュースを送って頂くようになったのも、中央公民館での目玉である町民大学講座に、院長先生をお招きし、腰痛のはなしをしていただいてからの御縁である。きっかけとはよくしたものである。

先ず健康を保持してゆくには、矢張り自覚が大切である。人にせがまれたり、いわれたりしているようでは効果があり得ない。自分の健康は自身のからだが知っているのだから。

それは無理をしない事だと信じている。世間さまからは、あの年になっていても、未だ館長をしていると除口をする声もある。が、私は私の生命と、ボケのない限り、つづける事をはっきりと宣言している。奉仕の精神と、無償の愛を、今こそ世間さまに還元することだと。そのことが私の健康管理を保持している最大の恩恵だと自負している。天は、私に規則正しい行動をするようにと教えて下さっていると思えば、なんの悩みもない筈だと、一寸悟りすぎたようである。

食生活で思い出したが、そのむかし戦争も終って、負け犬のように尾っぽをふっても食物がなかった。自分でさがしてもなかった。名も知らない野草もくった。野ねずみも喰った。都会育ちの将校も、兵隊も、すぐにおなかをこわし、下痢で死んでいった。だが、田舎育ちの兵は強かった。組食に耐えてきた胃が、たしかに強かった。何を喰べても消化された。思えばよくも生きてきたものだと今でも涙の出る時がある。

飽食時代……病人の多いのも当然のような気がするこの頃である。あ作所へいったのですが、雷で、どこらへんが道路かわからず、ノロノロ運転でした。風の強いところでしてね。それに道路の両側に建物もないもんで（どこら辺が道路かなあ）と思いながら走っとったことを思いだします。

（笑い）

病院へきてもらっての集団膠部検診は珍らしいことでした。

司会　この年の一月に森本嘉一秘書が京都府立医大に出向になりましたが……。

お金より人材を

院長　それはね。恩師の諸富教授が整形外科学会の会長になられたもんだから、その学会専用の秘書を一人送りこんだわけです。学会のためにお金を送るよりは人材を送った方が非常に役立つだろうと考えたものです。

整形外科機能訓練施設基準の承認第一号

司会　四十九年には、いろんなことがありまして、整形外科機能訓練の施設基準の承認になりました。富山県の第一号でした。

院長　この年に、更生医療と育成医療の指定もとりました。その初の意味で、この年の十二月第一回目の西能基金百万円を県社会福祉協議会に寄付しました。

石倉　新湊市の高木製作所から一日に三十人ずつ病院へ運びましたから半月以上がかったわけです。その時分、いまの国道8号線は呉羽から高岡までついとりました。この8号線に入って高木製作所へいったのですが、

司会　この年の一月に森本嘉一秘書が京都府立医大に出向になりましたが……。

お金より人材を

院長　それはね。恩師の諸富教授が整形外科学会の会長になられたもんだから、その学会専用の秘書を一人送りこんだわけです。学会のためにお金を送るよりは人材を送った方が非常に役立つだろうと考えたものです。

整形外科機能訓練施設基準の承認第一号

司会　四十九年には、いろんなことがありまして、整形外科機能訓練の施設基準の承認になりました。富山県の第一号でした。

院長　この年に、更生医療と育成医療の指定もとりました。その初の意味で、この年の十二月第一回目の西能基金百万円を県社会福祉協議会に寄付しました。

がんと闘う ②

わたしはこう思う

はじめに

健康な人にとっても益することが多いものだ。

まして福田勘太郎さんの場合は、日々丹念につけたぱっ大な闘病記録に基づくだけに説得力がある。途中でひょいとユーモアを交えたり、福田さんの人間味もでてついつい話にひきずりこまれた。初回につづいて、いま少し耳を傾けよう。お話相手は西能院長。

大病を克復した人の闘病生活に耳を傾けるのは、とてもこわい気もするが、病気の人はもちろん、私の手帳ではこういうふうになっているんです（きき合うこともあるんですが、初めて見つけたとき、あなたはがんですと告げていいかどうか、医者仲間でもよく問題になるんです。

福田　その点についてはね、私は最初にいったDさん（富山市・開業医）に白状さしたんです。とにかく、病名をいうてくれとしつこく頼んだんです。先生は開業して二年目、まだ若かったから、病名を知らせてはならんと思われたんでしょう。

西能　そうかもしれませんね。

福田　私は院長室へ何度もいってしつこく……。とうとう先生は、大きなドイツ語の辞書を取りだしてね。色刷の図解を見せて、この肛門の少し下に腫瘍ができているんだと……。

先生、ドイツ語じゃよう分からんから、日本語になおしてくれっていうた。

しょうがありませんね、いわゆる直腸がんです。

そうですか、それなら先生、切ってくださいよ。

こんなやりとりがあったが、先生はあまり気がすすまないようでした。万一のことを考えられたからでしょう。

それで私は、先生に東京で知っている医者はいないかと尋ねたら、癌研の梶谷さんだというわけです。

梶谷さんなら私もよく知っている。すぐ電話してくれ、梶谷さんが電話にでたので、私が代わって「先生、私は直腸がんだそうだ。いま主治医の先生と代わるから話してください」

そしたらあんた、ドイツ語を混ぜて盛んにやっているわけですよ。結局、二、三日中に癌研から連絡するから、入院の用意をして待っていろということでした。

寝台に

直腸がんのプレート

福田　ところが翌日、電話があってすぐでてこいというんでしょう。なんぼなんでもびっくりしてしまって……。いろんなことを手配したり、女房に言ったり、銀行やテレビ会社（当時、富山テレビ副社長）へ行ったり……。飛行機の中でいろんな知り合いに会ったけれど、病気のことはいわなかった。羽田に着き、癌研へ直行、検査に二週間ほどかかり、そして手術したんです。

西能　そうでしたか。そこで私、初診されたDさんに、先生も偉かったと思うんですよ。相手をよく見て病気の真相をいわないと、こういう病気は病名を聞いただけで生気をなくしてしまってダメになるんです。

福田　たいがいの人がそのようですね。

的確、素早い対応

「先生、すぐ電話してくださいよ。と、その場で癌研と連絡とりました」と、福田勘太郎さん

内科に常勤医師

10月1日から

富山医薬大附属病院から星野医師就任

星野医師

西能病院に、富山医科薬科大学附属病院第一内科の星野清医師が、内科一般常勤医師として十月一日から就任。内科の常勤医師は、しばらくの間、空席のままだった。これで内科陣が強化される。

就任にあたり星野医師は、つぎのように語っている。

「西能病院には学生時代、空手で手首と足首をねんざしてお世話になったことがあります。一日も早く西能病院の空気にとけこみ、一生懸命がんばりますから、よろしくお願いします」

星野医師の略歴

新潟県生まれ。昭和五十年三月、新潟県立小千谷高校卒、昭和五十七年三月、富山医科薬科大学医学部医学科卒、同年五月、同大学附属病院研修医、五十八年七月、同大学研究生、五十九年十月、同大学附属病院医員。

千葉大に研修留学

金明黒医師

昨年四月二十一日から西能病院で研修留学していた中国医科大学第一附属病院整形外科教室講師、医学博士、金明黒＝じんめいき＝さん（四二）は千葉大学医学部整形外科教室へ研修留学のため七月三十一日富山を出発した。研修は一年間で、再び西能病院に帰ってくる。

思い出を語る

誕生会は五回だけ復活して毎月病院で

司会　院長宅での誕生会は五回（47年9月～48年4月）だけで立ち消えになりましたね。

一同　奥さんが大変だったと思います。

誕生会は六十一年四月に復活し、毎月一回病院五階小会議室で院長を囲んで昼に会食をやっています。出席者は、その月に生まれた方たちです。お祝いに銀製のスプーンをいただきます。

司会　四十七年十二月に外来及び医事部門の改装工事が完成。そして四十八年二月に外来待合室に喫茶コーナーが新設開店しました。

改装工事で病院に活

院長　なぜ改装工事をやったかと申しますと、患者数が減りはじめたからです。四十四、四十五年と、よかったんですが、四十六、四十七年と、だんだん減ってきました。こうすれば、はやると思ってやったわけです。

机も椅子も新品に

堀　そのときに診察室の机とか椅子などを新品にしました。

司会　受付がオープンカウンターになりましたが、患者さんたちのイメージはどうだったですか。

印象がよかったオープンカウンター

堀　やっぱり、外来患者さんはじめ皆さんに印象がよかったんじゃないですか。

出席者

△元勤務者＝高木信正、高田忠美、竹林一子、真田はな、杉浦ゑみ子

△現勤務者＝石倉喜一、山口明江、奥平美和子、三原八重子、荒井紀夫、関待子、森川湿子、伊藤勝仁、金谷智恵子

△西能正一郎（院長）

西能妙（副院長）堀政夫（顧問）古沢富美（顧問）

△司会＝中島弦（部長）

＝（敬称略）

シャッター閉めは九時ごろ

伊藤　これまでの窓口はガラス窓で診察時間が終わりますと、シャットアウトしてしまうのが、ご不満でした。オープンカウンターになってからは、シャッターをしめるのは午後九時ごろになると、よいやく閉めました。というわけです。カウンターにはシャッターはないので、その途中のレントゲンのところで閉めたものです。

高くて、どちらも不便

石倉　そのころのカウンターについて思い出があります。カウンターがちょっと高くて、おばあさんたちには向こうに坐っている受付の人に気がつかないことも、たまたまありました。また受付の人は椅子に坐わっていると、頭が低くなってしまって、向こうからきた患者さんがわからんということもありました。

（笑い）

司会　そのころのカウンターの高さはどれくらいでしたか。

院長　一・二mぐらいでしたかね。たしかに高かったようです。そこまで考えとりませんでした。

司会　喫茶コーナーができたころの評判はどうでしたか。

利用者があった

堀　けっこう利用者がおったんじゃないですか。時間的には午前十時ごろから午後三時ぐらいまででした。

そこまで考えておらず

院長　飲み屋のバーテンをくどいて、つれてきたんです。「どうせ夜しか仕事がないだろう。昼間こいよ」といってね。（笑い）

司会　四十八年四月、副院長が千葉大学整形外科へ一カ月の内地留学をされました。また同年七月にレントゲンのテレビ装置が設置されました。

バーテンをくどいて

お詫びのしるしに

院長　内地留学は、大学へ戻せなかったもんだから、お詫びのしるしに……。

司会　四十九年にとびますけど、一月に高木製作所の四百九十五人が膠部検診を受けましたが、こちらに（左腹部に手をあてて）袋をあてながらですよ。当時は袋といっても、紙でつくった、まあすごいものですよ。

バスで迎えに集団膠部検診

副院長　こちらからバスで迎えにいって二十人ぐらいずつきてもらってレントゲンとって診察しました。

雪で道がわからず

うまくいったがん告知

「素早く対応できたのが非常によかった」と西能院長

西能　会長の場合は非常にいい先生にお会いになり、そのへんのむずかしい問題もうまくいった。まあ会長の人徳もあるのでしょうけど……。その へんをはっきりさせ、素早く対応できたのが非常によかったと思います。

福田　それでね、寝台のの後ろに〝直腸がん〟と書いた札がかかっているんです。病棟には私みたいな人が十人くらいおりましたが、私の入院中に半分亡くなりました。富山の人も一人おりました。

福田　だから尿道から管を通して、片っ方がいつもかもピンにつながっているんですよ。

たまりかねて、先生なんとかなりませんかって いうたらね、お前、それは前立腺肥大だ、ついでに手術するか。

はいはい、やりましょう。半身麻酔だぞ、それでもよいな。

そんなわけで両手両足をバンドで締められて手術が始まった。

まず、麻酔ですね。二時間という院長の声。そして何ミリ切りますか、といって前立腺の手術をされたんでしょうか。

福田　そう、十日間ほど……。

西能　ほう、まだそっちも痛いし……。

福田　本当に痛い。でも、いつも導尿じゃ癖になってしまうし。それでがんばりました。あのときは脂汗がでましたよ。女房などはおったって何にもならんわけですね。

婦長が専属で付きっきり、要するに私に号令かけてくれたんです。

西能　それでとうとう退院にこぎつけましたが、今ほどいましたかね。そのあと、また富山のDさんの所へ直行し、三週間ほど療養しました。

話は変わりますが、病気との第二回戦はアデノイド治療のためのリンパ（左右）手術です。放っておくとどうなるかと医者に聞いたら、陥没するというんです。昔よく顔半分が陥没した人がいましたね。それを思いだしてゾーっとしましたね。

陥没するから、ここへ放射線を当てましょうと医者はいう。放射線をどれだけ当てればよいのか知らないで、それじゃ当ててください。治療は五十六年七月二十七日でした。ところが、すごい放射線の当て方でね。人間の許容量はせいぜい六千レムだそうですが、私の場合は一万二千八百レム当てたというんですからね。

（つづく）

わたしはこう思う

健康教室から

家族との対話も大切
ストレス解消の具体的方法

七月二十四日午後七時から五階ホールで、「健康教室」が、四十一人の参加者で開かれた。

当日のテーマは、「ストレスの解消について」と題し、山本看護部長が担当した。

初めに、NHK教育テレビの「ストレスについて」と題したビデオを見た。いかにストレスを管理するのか――たとえば規則正しい食事、睡眠をとることや、継続して運動をおこなうなど、色々と学んだ。

ビデオ終了後、山本看護部長から、ストレスの解消の具体的な方法について話してもらった。また日頃より、家族との対話をおこない、心の交流をする。旅行、ジョギング、絵、習字など種々な趣味を生かし、気分の転換をはかる等の大切さを、わかりやすく、そして、ユーモアを交えて話してもらった。

その後、ストレスを吹き飛ばす、「ストレス体操―かぞえうた体操―」を音楽に合わせて、リズミカルにおこなった。（写真）

参加者一同、心身ともにリフレッシュした。

また、当日、配布した資料も大変好評で、家へ持ち帰っていただいた。

体操の継続を

参加者から今後、講演終了後、是非、体操をしてほしいとの強い要望があった。

今後も頑張っていく勇気がわいてきた。

（西能病院地域医療チーム、渉外課長心得、渡辺裕之）

頚椎脊柱管狭窄症との戦い ②

荒井紀夫

三年前に、女房が当病院でヘルニアの手術をしたとき、私は本当に悩んだ。富山赤十字病院に勤めている女房を退職させ家事に専念させていたら、腰痛もおこらなかったのにと。

しかし、そのとき、すでに私の頚も痛くなっており、筋力の低下もあり、やがては、手術の日がくることを予測していた。六カ月から一年はかかるだろうと考えられた。そうなったときは、女房には

サシミがつまめない
手術前の不安つのる

すまないが、がんばってもらうことにした。

だが予想より早く手術のときがきてしまった。不安がつのる。もう五、六年待ってくれたらと考える。長男は高校への入学がきまったものの中学の卒業式があるし、長女は小学校の卒業式、そして和合中学への入学が目の前である。私も女房も、今が一番忙しく、大変な時である。せめて、あと二、三カ月あとにならないだろうか。

仕事の上でも番谷由美子さんが産休あけで三月二十四日からでてきてくれるのに…。そして、富山市の社会福祉協議会からたのまれて、市内の公民館に講義にいくことになっていたのに…。その原稿を書くのも苦しい。どうすればよいのだ。

二月二十一日（六十二年）つらい。もう働けない。患者さんにも失礼だ。そして今日から違った症状がでてきた。脊髄症状であろう。両手がしびれてきた。歩行時、特に階段を降りる時に、両上肢、体幹、両大腿部にピリピリと電気が走る。気持ちが悪くて歩行しにくい。ハシがうまく使えない。サシミがつまめない。文字が自分の思ったとおりに書けない。違った方向にまがっていってしまう。家からのバス通勤にも都合が悪くなってきた。

（西能病院リハビリテーション課長）

病院だより

八月

二日＝神通川いきいき早朝マラソン大会、救急車二台（二人）看護部五人が救護活動。

五、六日＝第23回中部八県県議会議員親善野球大会（富山球場、五福球場）に救護班を派遣。

八日＝日本病院会の全国病院長、幹部医セミナー（開催地名古屋市）で、西能院長（同会常任理事）が「医師の需給体制と今後の対応」のシンポジウムに参加。

十一日＝五階小会議室で誕生会、出席者は十二人。

物故者法要

十四日＝この一年間に病院で死去した十二霊の物故者法要を五階日本間で職員多数が出席して営んだ。

「きらめいて朝」に健康教室が登場

二十五日＝北日本ラジオ「きらめいて朝」吉友嘉久子です」（午前九時）で、又井敏子保健婦が吉友さんと、西能病院の「健康教室」について電話で対話。

西能基金一千万円に

二十八日＝西能基金十回目の百万円を、県厚生部長室で、西能院長から横山県社会福祉協議会長に贈呈。これに対し、横山会長から西能院長に感謝状がおくられた（写真㊨）

西能基金の第一回目は昭和四十九年十二月。

二十八日＝五階ホールで「肺ガンについて」の健康教室。講師は国立富山病院の吉野武医師。

九月

二日＝西能副院長、大山町社会福祉センターで開かれた婦人スポーツ活動リーダー講習会の席上「スポーツと医学」について講演。

西能病院チームが準優勝

六日＝県議、大上紀美雄（西能病院評議員）後援会主催のソフトボール大会、神通川河川敷グランドで二十四チームが参加、四組に分れて熱戦を展開。西能病院チームはA組（六チーム）で準優勝。

八日＝五階小会議室で誕生会、十四人が出席。

九日＝看護教育研究会（福井）に山本玲子看護部長出席。

十二、十三日＝一般職員研修会（第一回）牛岳ユースハイランド。研修テーマは「コミュニケーションについて」。

十四日＝富山県スポーツ奨励賞選考委員会に、山本看護部長が出席。

十九、二十日＝一般職員研修会（第二回）

十九日～二十三日＝日本看護連盟主催の青年キャンプ研修会（群馬県）に田畑朱美看護婦出席。

二十五日＝健康教室、「膝の痛みについて」担当、吉岡勉医師。西能病院五階ホール。

二十五日＝富山消防署管内の屋内消火栓操法大会に、病院から男女各一チーム（一チーム三人）が出場。場所は牛島公園。

二十六、二十七日＝一般職員研修会（第三回）

二十七日＝神奈川県病院協会の招きで西能院長が「最近の病院経営管理をめぐる問題点」について講演。

◇新しい採用職員

細川元美、中山恵美子、川端憲子、浅野美津枝（以上看護部）黒田栄子（栄養部）

地域の皆様とともに歩ゆむ　診療科目時間のご案内　西能病院

★一般受付時間（但し、日曜・祭日は休診です）

診療科目	曜日	午前の部	午後の部
整形外科	月～土	8：30～12：00	16：00～19：00
リハビリテーション科	月～土	8：30～12：00	13：30～19：00
内科	月～土	8：30～12：00	15：00～17：00（但し、月・水曜日は休診）
スポーツ外来	毎週火曜日	※スポーツ障害の治療やスポーツ相談	15：00～18：00
神経内科外来	毎週木曜日		14：00～17：00
循環器外来	毎週金曜日	※心臓病疾患、腎臓疾患でお困りの方はご利用下さい。	13：00～17：00
泌尿器科外来	毎月第2・第4土曜日		13：30～17：00
形成外科	毎月1回	8：30～12：00	※診療日は受付でおたずねください
在宅療養活動	毎週水曜日	※（在宅酸素療法を含む）	13：30～15：00

★当病院では、年中無休　いつでも、診療ができるように24時間体制で、チームを編成しています。

救急出動OK　もし、救急車が必要でしたら要請して下さい。お迎えに上ります。常時2台待機しています。